

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

香川県 高松市

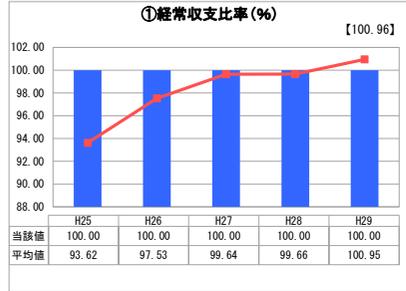
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	90.87	0.04	100.00	2,571

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
429,189	375.41	1,143.25
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
159	0.17	935.29

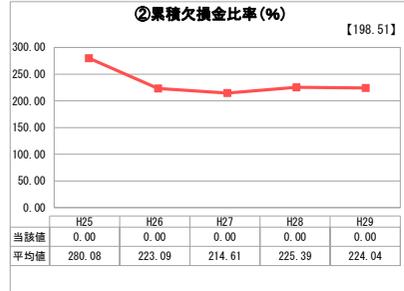
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

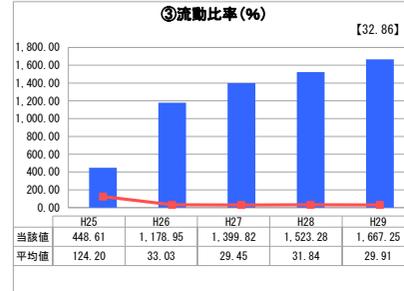
## 1. 経営の健全性・効率性



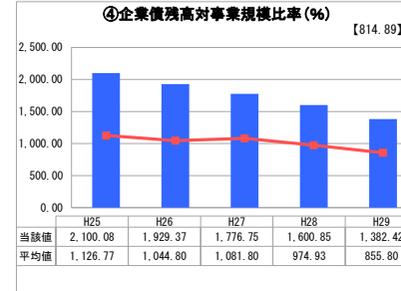
「経常損益」



「累積欠損」



「支払能力」



「債務残高」



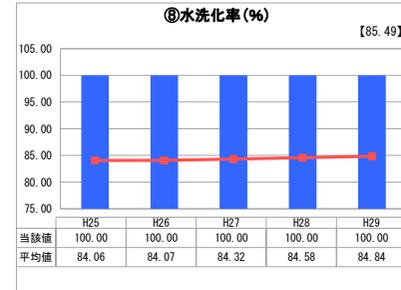
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

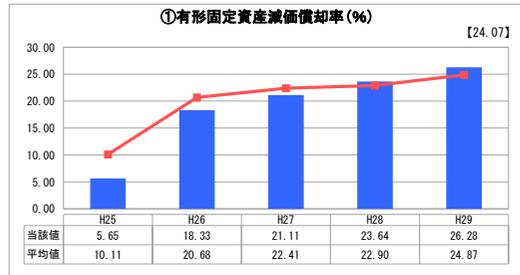


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

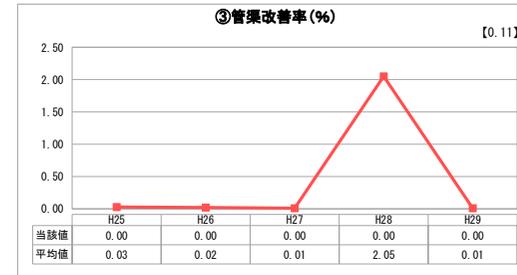
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、使用料で回収できない経費を一般会計からの繰入金で全額繰り入れて賄っていることから、比率は100%となっている。

④企業債残高対事業規模比率は年々低下してきており、これは、現在新規の企業債の借入れを行っていないため、更新の時期を迎えるまでは、今後も低下傾向で推移すると思われる。

⑤経費回収率及び⑥汚水処理原価については、今年度は、類似団体平均値より良好な数値となっている。これは、平成29年度については、施設の修繕費等が少なかったことによるものである。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始が平成7年頃と比較的新しく、管渠・施設等の法定耐用年数経過まで期間があり、管渠の傷みも少ないのが現状である。しかし、マンホールポンプなど、施設に負荷の掛かるものにおいては、計画的な修繕等を行い、適正な維持管理に努めている。

## 全体総括

農業集落排水事業の運営は、収入不足であり、その不足額については、一般会計繰入金で補うことにより収支を均衡させている。

また、過疎化の進んでいる地域のため、今後利用者数の減少も見込まれる。しかし、使用料改定等による経営状況の改善を行うことは、使用者の負担を増大させることから、使用者数の減少に伴う収入の減少の恐れがあるため、現状では非常に難しい状況となっている。

現在は、平成27年度に改定し、経営戦略を兼ねることとした高松市上下水道事業基本計画（平成24年度～平成35年度）に基づき、事業を行っているが、平成30年度に水道と下水道の組織が分離することから、今後、新たな計画を策定し、引き続き経営成績や財取状況を明確にし、効率的な事業運営を実施していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。